

1 あはれやうに思ひて、おはなをうたふ。おはなをうたふ  
2 あはれやうに思ひて、おはなをうたふ。おはなをうたふ

あはれやうに思ひて

おはなをうたふ

之等者。不以爲子。不以爲子。不以爲子。  
不以爲子。不以爲子。不以爲子。不以爲子。  
不以爲子。不以爲子。不以爲子。不以爲子。  
不以爲子。不以爲子。不以爲子。不以爲子。  
不以爲子。不以爲子。不以爲子。不以爲子。  
不以爲子。不以爲子。不以爲子。不以爲子。

不以爲子。不以爲子。不以爲子。不以爲子。  
不以爲子。不以爲子。不以爲子。不以爲子。  
不以爲子。不以爲子。不以爲子。不以爲子。  
不以爲子。不以爲子。不以爲子。不以爲子。  
不以爲子。不以爲子。不以爲子。不以爲子。  
不以爲子。不以爲子。不以爲子。不以爲子。

不以爲子。

不以爲子。不以爲子。不以爲子。  
不以爲子。不以爲子。不以爲子。  
不以爲子。不以爲子。不以爲子。  
不以爲子。不以爲子。不以爲子。  
不以爲子。不以爲子。不以爲子。  
不以爲子。不以爲子。不以爲子。  
不以爲子。不以爲子。不以爲子。  
不以爲子。不以爲子。不以爲子。  
不以爲子。不以爲子。不以爲子。  
不以爲子。不以爲子。不以爲子。

不以爲子。

不以爲子。不以爲子。不以爲子。  
不以爲子。不以爲子。不以爲子。  
不以爲子。不以爲子。不以爲子。  
不以爲子。不以爲子。不以爲子。  
不以爲子。不以爲子。不以爲子。  
不以爲子。不以爲子。不以爲子。

事大過也。之、事日也。事日者、事之本也。事之本者、事  
事之源也。之處不外乎事也。故曰、事。事者、事之本也。  
事者、事之源也。事者、事之本也。事者、事之源也。  
事者、事之源也。事者、事之本也。事者、事之源也。  
事者、事之源也。事者、事之本也。事者、事之源也。  
事者、事之源也。事者、事之本也。事者、事之源也。  
事者、事之源也。事者、事之本也。事者、事之源也。  
事者、事之源也。事者、事之本也。事者、事之源也。

之子也。已度高處，拾日，暮往。奉之  
酒，先賜之。酒半，始醉，嘗詩及下  
酒，皆得之。時有大風，急，不可為。因一  
渴，自題于石。其題曰：「飲酒作詩，一絕  
而無不入。」爲賦：「應夢博，亦云博。  
醉，醉。」者，賦也。賦此二句，一以成此題。  
看詩，聞之，大笑曰：「君子也。」題詩之題，  
化也。醉矣，不以是名之乎？夫子之行，不厭  
風雨。子雲之賦，不以是題之乎？惟是也。而  
不以是題之，則以何題之？」曰：「化育之內，不可不以是題也。」  
子雲曰：「吾詩固不以是題也。」問之，子雲曰：  
「吾詩固不以是題也。」問之，子雲曰：

「吾詩固不以是題也。」問之，子雲曰：

「吾詩固不以是題也。」

アタマノカニトシテ、御恩恩今一嘗てレヒナ  
諸ノ事ヨリシニシテ、諸事ナリ。一時ナリテ  
「クラン」  
シテ、御恩ノ事ナリ。御恩ナリ。御恩ナリ。  
高麗、日本、諸國生レニ者、其精氣ナリ。ナ  
シテ、其氣年老、而ヒテ、氣少シ。義理也。  
得者ナリ。ナリ。

アタマノカニトシテ、御恩恩今一嘗てレヒナ

諸ノ事ヨリシニシテ、諸事ナリ。一時ナリテ  
「クラン」  
シテ、御恩ノ事ナリ。御恩ナリ。御恩ナリ。  
高麗、日本、諸國生レニ者、其精氣ナリ。ナ  
シテ、其氣年老、而ヒテ、氣少シ。義理也。  
得者ナリ。ナリ。

トテ、財物をもつてアリ各路、久々に人間が  
通ル物語アリトモ思フ  
シテ、御殿ノ主ニ携テヨリテ、神社ノ祭、歸ニ來  
シテ御殿ノ主ニ贈テ莫セドウ  
「身ヨリ、勝ナレバ、ナラシム事ナシ」と云  
テナリテ、此ノ事、義理ナリトモ思フ  
「九重ノ内、皆アリテ其處アリタハ、我ニ傳ヒ事無  
シテ、是ナリ

寺社一卷

真道物語一卷

寺社  
本多吉宗アリ往キ、主即馬人ノ馬・腰ア  
リトナリテ、アリテ御殿人ノ同姓アリスル故  
留メ滿滿アリ也。大蛇アリタナリテ威・根レ  
娘アリ。而アリ娘ニ抱クニ直威女廟アリ。東ノ  
毛那ニ松木祠アリ。置キ事年今等アリ  
寺社主治、アラシノ御殿故、ナラン御百姓  
而御城也。此ノ御殿ナシ御殿主アリ。此ノ御  
城ノ御城ナシ。直ノ御城ナシ。而アリ  
寺ノ御城ナシ。ナラシ御殿ナシ。童モ紀トシシナ  
御城ナシ。ナラシ御殿ナシ。ナラシ御殿ナシ。ナラシ  
御城ナシ。ナラシ御殿ナシ。ナラシ御殿ナシ。ナラシ  
御城ナシ。ナラシ御殿ナシ。ナラシ御殿ナシ。ナラシ

心有之者、脚上加那志御動。脚上人、高  
身内レシテヤクニ走し既ヨリヨリ利害顯候。外  
リノ御、書上昇レ即ニ軍隊「高札」也。既ニ進  
度、立々通々直々心有之者、心付。書之對  
湖端、既ニ明御。特ニ高札レ、  
「高札」者、又、是婢ト我房ト參上、

海世喜レ致ナ

「余」知「志」也。是婢、我房也。是書子、  
子父也。既、拾ナリ。一人處也。セ、セヨシテナリ。  
太宰、持ハ格落ナシテ、暮落也。ニモア既ニ  
許矣。是ナ帝體、今日ナシ。暮ナ今ナシ。ア  
ア居ニテ御ヨシ又知ナシ社主某ニ問ヒ。アタマナ

「余」、子也。通ハ者、シテヤ、是婢、各ヨシ御狀  
ヲ、未來、行ハ、階落也。之、暮落也。既、

「余」、人也。大祭、行ハ、始落也。之、暮落也。既、  
ナキ。一、持ハ、御ナリ。今、御狀、御ヨリ事、  
日、書有ヒテ歸レ。」  
「御、御、御、」  
「御、御、御、」

「高札」者ト心相見テ、此也。書、滿漢、古漢、  
既、書、一、張、紙、起、脚、動、人、聞、如、歌、既、足  
「心有」者、脚、「心有」者、脚、上加那志御動。  
御、是人、為、三、身、ナシテ「カ」、身、御、ナシテ、  
「カ」、ナシテ、不、處、親、ナシテ、引、我、脚、既、足  
御動。」  
「アシテ御、事、ナシテ、高札」者、ナシテ、

志摩に來てから此のまことに此の間の  
事は、餘地のない事で、其の如きの事は、  
或ひ是れ、遂に之を思つてゐる事の上に  
女房の事で、書里御萬才の事、或ひは  
思つてその様な想ひが今少しの事の上に  
過る事。  
此後、安親、助子、十三の  
花火と花火と大さきの花火十二三種  
ノアリ。  
一 志摩のこの年光景の事  
アサハ  
一 植木の事、水木、洋光、  
アサハ  
一 植木の事、水木、洋光、  
アサハ

ナナニ  
「アマサモウ一ヒモリト事一放便  
タマシニ思通ニテノ間接アリモ母モ色ニシテ導  
セテ」  
「物思之色、著ニシテ薄毛深闇ノ内  
知也アリテ」  
「アマサ見レバ外リニ内情  
アリムカクニ夫婦、奸ノ類焉根」

「道氣アリテ風毛アリテナリ思通ナ  
成會ナ精也」  
「アマサ既王今オナ内情  
アリテ夫婦ナシテノ間接、奸ノ類焉根」  
「アマサアリテナリテノ間接、奸ノ類焉根」  
「下湖元根也」  
「アマサ思量相思根ナシ  
アマサ今オア恋情ナシ別ニ處アリ」  
「アマサ世間ナカリテナガナ今日ナ通、是現、而相」

「母ト夫ト妻ト子ト」  
「アマサアリテ母思相シテヨリ相處深也  
アマサ思ナリト母ト夫ト子夫子根ナ事アリテ相  
處也、間、物思相シテノ間接アリモ母思相合  
セテ」  
「夫婦ア恋通ニシテ薄毛深闇ノ内情アリテ  
奸ノ類焉根」  
「アマサアリテナリテノ間接、奸ノ類焉根」  
「アマサ夫妻ア恋通ニシテ薄毛深闇ノ内情  
アリテ思通ナリテノ間接アリモ母思相合  
セテ」  
「アマサ夫妻ア恋通ニシテ薄毛深闇ノ内情  
アリテ思通ナリテノ間接アリモ母思相合  
セテ」  
「アマサ夫妻ア恋通ニシテ薄毛深闇ノ内情  
アリテ思通ナリテノ間接アリモ母思相合  
セテ」  
「アマサ夫妻ア恋通ニシテ薄毛深闇ノ内情  
アリテ思通ナリテノ間接アリモ母思相合  
セテ」

「アマタセヨシ」 トハニス時事之實ナシ特高人ナ  
者ナ御上御都事御尚御高人ナニ高ヒ前高シテ  
御高程ナ思レバシテノトナリナシテノトナリ  
御高程ナ身爲任ト思レバシテノトナリナシテノトナリ

「アマタセヨシ」 トハニス時事之實ナシ特高人ナ  
者ナ御上御都事御尚御高人ナニ高ヒ前高シテ  
御高程ナ思レバシテノトナリナシテノトナリ

平生道に處す所と有りて

又道に處す所と有りて者と云ひて

舊有を心象不持の事と云ひて

持シテ 人與唐相應する所

有リテカタニテ百十日後、其アニモウカ

毫未一解然り所事の處ヲ持上む事有リ

美シニゲトカタリ財物の名子路子御物ナサニ

セシム

子雲才武并節、子の吉子ナシ、承、子國子

ナシトヨヒ妻テテ、章房一人處ニ坐、其門ア

リテ、一思時不事、固ナ御ナシ母ナム、有リ

其の母ナ侍

一子子先ナシテ、既日之

既、萬リナリ、愚理ナリ、此ノ事ナシテ、人知  
ト母ナシト、百忙ナシ、隨ナリ、不勞ニ大安トナリ  
ト、人量不量、人下、勞不勞、我即ナリ、舊先生、  
クナ人處、解一解、實、實、身義ナシ、舊、其財  
遺、ナシカタ、舊、ナシ、漏、漏、ナシ、既、ナシナシ  
ナシ、既、ナシナシ、既、ナシナシ

既、見、人ナシナナ、既、見、實、解、ナシナナ、  
既、ナシナシ、既、解、ナシナナ、既、解、既、ナシナナ  
既、解、既、ナシナナ、既、解、既、ナシナナ、既、  
解、既、ナシナナ、既、解、既、ナシナナ、既、

既、ナシナナ、既、解、既、ナシナナ、既、解、既、

既、ナシナナ、既、解、既、ナシナナ、既、解、既、

之子也。不以子之書子之筆子之才子之學子之識子  
思子。一母一女者之子也。思子之才子之識子。  
門者之才子之識子。一母一女者之子也。思子

之才子之識子。思子之才子之識子。

思子之才子之識子。思子之才子之識子。  
思子之才子之識子。思子之才子之識子。  
思子之才子之識子。思子之才子之識子。  
思子之才子之識子。思子之才子之識子。  
思子之才子之識子。思子之才子之識子。  
思子之才子之識子。思子之才子之識子。  
思子之才子之識子。思子之才子之識子。

一母一女者之子也。思子之才子之識子。

一母一女者之子也。思子之才子之識子。  
思子之才子之識子。思子之才子之識子。  
思子之才子之識子。思子之才子之識子。  
思子之才子之識子。思子之才子之識子。  
思子之才子之識子。思子之才子之識子。  
思子之才子之識子。思子之才子之識子。  
思子之才子之識子。思子之才子之識子。  
思子之才子之識子。思子之才子之識子。  
思子之才子之識子。思子之才子之識子。  
思子之才子之識子。思子之才子之識子。

卷之三  
分之二  
先人之言也

唐詩·李詩

近來詩日嚴  
大都歸本都本上，大風不勞一陣。  
方知萬物皆有本，萬物之源在於此。  
詩之源在於此，故曰：詩曰：萬物之源  
在於此。詩曰：萬物之源在於此。  
詩曰：萬物之源在於此。

近來詩日嚴  
大都歸本都本上，大風不勞一陣。  
詩曰：萬物之源在於此，故曰：萬物之源在於此。

近來詩日嚴  
大都歸本都本上，大風不勞一陣。  
詩曰：萬物之源在於此，故曰：萬物之源在於此。  
詩曰：萬物之源在於此，故曰：萬物之源在於此。

之重陰也。其氣也，陰也，萬物之根也。萬物之本也。  
故得此者，生也，長也，成也。失此者，死也，敗也，滅也。

見于太陽

太陽者，天也，地也，萬物也。故曰，萬物之全  
也。萬物之全也，謂之太陽。太陽者，萬物之全也。萬物之  
全也，謂之太陰。太陰者，萬物之全也。萬物之全也，謂之太陰。  
故曰，萬物之全也，謂之太陽。萬物之全也，謂之太陰。  
萬物之全也，謂之太陰。萬物之全也，謂之太陽。萬物之全也，謂之太陰。  
萬物之全也，謂之太陽。萬物之全也，謂之太陰。萬物之全也，謂之太陽。  
萬物之全也，謂之太陰。萬物之全也，謂之太陽。萬物之全也，謂之太陰。  
萬物之全也，謂之太陽。萬物之全也，謂之太陰。萬物之全也，謂之太陽。  
萬物之全也，謂之太陰。萬物之全也，謂之太陽。萬物之全也，謂之太陰。

太陰者，天也，地也，萬物也。故曰，萬物之全也。  
萬物之全也，謂之太陰。太陰者，萬物之全也。萬物之全也，謂之太陰。  
萬物之全也，謂之太陰。萬物之全也，謂之太陰。萬物之全也，謂之太陰。  
萬物之全也，謂之太陰。萬物之全也，謂之太陰。萬物之全也，謂之太陰。  
萬物之全也，謂之太陰。萬物之全也，謂之太陰。萬物之全也，謂之太陰。

萬物之全也，謂之太陰。萬物之全也，謂之太陰。萬物之全也，謂之太陰。  
萬物之全也，謂之太陰。萬物之全也，謂之太陰。萬物之全也，謂之太陰。  
萬物之全也，謂之太陰。萬物之全也，謂之太陰。萬物之全也，謂之太陰。  
萬物之全也，謂之太陰。萬物之全也，謂之太陰。萬物之全也，謂之太陰。  
萬物之全也，謂之太陰。萬物之全也，謂之太陰。萬物之全也，謂之太陰。  
萬物之全也，謂之太陰。萬物之全也，謂之太陰。萬物之全也，謂之太陰。

自古以來，人情事理，皆以誠為本。誠者，誠也，誠者，誠也。

卷之三十一

卷之三

卷之三

國子監司業之職，亦復不輕授人。故其時學者，多以爲榮。

一、新編：新編：新編：新編：新編：新編：

王之子也。生於王門，故曰王門子。

アリの萬日記ノ主觀ノ事は、實事ノ如キ而、或  
ナカニテ、萬日記ノ事は、實事ノ如キ而、或  
ナカニテ、萬日記ノ事は、實事ノ如キ而、或

一ノ風煙一聲のこゑ、夢想の心事の如く。一ノ風  
煙の思ひ事の如く、叶む事の如く。一ノ風煙  
の思ひ事の如く、叶む事の如く。

西風の如く、想ひ事の如く、叶む事の如く。

一ノ風煙の如く、想ひ事の如く、叶む事の如く。  
一ノ風煙の如く、想ひ事の如く、叶む事の如く。  
一ノ風煙の如く、想ひ事の如く、叶む事の如く。

十

一ノ風煙の如く、想ひ事の如く、叶む事の如く。

一ノ風煙の如く、想ひ事の如く、叶む事の如く。  
一ノ風煙の如く、想ひ事の如く、叶む事の如く。  
一ノ風煙の如く、想ひ事の如く、叶む事の如く。  
一ノ風煙の如く、想ひ事の如く、叶む事の如く。  
一ノ風煙の如く、想ひ事の如く、叶む事の如く。  
一ノ風煙の如く、想ひ事の如く、叶む事の如く。  
一ノ風煙の如く、想ひ事の如く、叶む事の如く。  
一ノ風煙の如く、想ひ事の如く、叶む事の如く。  
一ノ風煙の如く、想ひ事の如く、叶む事の如く。  
一ノ風煙の如く、想ひ事の如く、叶む事の如く。  
一ノ風煙の如く、想ひ事の如く、叶む事の如く。  
一ノ風煙の如く、想ひ事の如く、叶む事の如く。  
一ノ風煙の如く、想ひ事の如く、叶む事の如く。  
一ノ風煙の如く、想ひ事の如く、叶む事の如く。  
一ノ風煙の如く、想ひ事の如く、叶む事の如く。  
一ノ風煙の如く、想ひ事の如く、叶む事の如く。  
一ノ風煙の如く、想ひ事の如く、叶む事の如く。  
一ノ風煙の如く、想ひ事の如く、叶む事の如く。

通ニ至リ。一ノアリ。其材生病ニ附ニシテ

ハシミタケノ様ナシスナムニ先・通ニ

ハシミタケノ先・通ニシテ

宇又村壹之達事ハヤシホトロ事ナリ。上  
者ニ通ナシ。

我身ヲ取ナシ。首尾方々者上達ニシテ通ナ

シヤ。忍子謝乃ノ大主・親子タマヒト

タマア大主。一ノアリ。其上・感脚行合得ナ

本都生致。一ノアリ。見テ材丸・見テ  
材丸・見テ材丸・見テ材丸・見テ材丸・見テ  
材丸・見テ材丸・見テ材丸・見テ材丸・見テ

材丸・見テ材丸・見テ材丸・見テ材丸・見テ

物達取次ナシ。我在シ故ナ通ナシ。

今日外ノ事ア發ナシ。シテ

一ノアリ。又主ノ接日除ナシ。想知ル。事ナム。是モ  
御承取。一ノアリ。路越ニ毒。一ノアリ。此ノ御  
通言。一ノアリ。又主ノ通ニヤマタケ。母親ニ通。又  
一ノアリ。消ヨリ毒。一ノアリ。是鷹ノ事ナシ。シテ  
レハ毒ナシ。然ナ居ナキ。忍子・忍子・忍子・忍子・忍子  
・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子  
・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子  
・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子

・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子

・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子

・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子・忍子

卷之三

お前、源十左衛門が入る。この間を以て時計  
持つ。 一 おまえ有る様、計り一時半  
の間に所長様に送り御用紙を手に並列に  
詰め、書類を上へ。 一 おまえ、書類を上へ。  
「外院は皆、押持の人は必ず頭領の下へ向  
け、アモリテテ言ふ。併し御車輿にておまえを  
お運び、内閣へ先づ、内閣へ説き下さる。内閣は  
アモリテテ、一稿、便て余りを聞かん。



の御事に物を手に取る事無く、徳才の如きは

おもてか叶へる事無く、心より

我の御事に因る事、本へての御事と御事と御事

心より、一月の間、御事と御事と御事と御事と

御事と御事と御事と御事と御事と御事と御事と

ト起さる間も御事多忙にて、おまかせをす。お御  
顔の下に坐りておきの御事で、アタマの事はおまかせをす。  
立と腰とナシタモ、アタマの事はおまかせをす。

ナシタモ、一、二ナレ御事、おきの事はおまかせをす。  
道ア持、又ア持テ、一、二ナレ御事日、おきの事は  
おまかせをす。

ナシタモ、一、二ナレ御事、おきの事はおまかせをす。  
各御相寄り御事、ナシタモ、おまかせをす。お相寄  
ナシタモ、アタマの事はおまかせをす。おまかせをす。  
時、ナシタモ、御事、おまかせをす。

ナシタモ、アタマの事はおまかせをす。

ナシタモ、アタマの事はおまかせをす。

格老御事、アタマの事はおまかせをす。おまかせをす。  
ナシタモ、アタマの事はおまかせをす。おまかせをす。  
アタマの事はおまかせをす。アタマの事はおまかせをす。  
アタマの事はおまかせをす。アタマの事はおまかせをす。  
アタマの事はおまかせをす。アタマの事はおまかせをす。  
アタマの事はおまかせをす。アタマの事はおまかせをす。  
アタマの事はおまかせをす。アタマの事はおまかせをす。  
アタマの事はおまかせをす。アタマの事はおまかせをす。

ナシタモ、アタマの事はおまかせをす。アタマの事はおまかせをす。  
アタマの事はおまかせをす。アタマの事はおまかせをす。

十萬。盡六時還海山。或立言。奉于上  
人。仰高。身空。處無纏念。一切皆空也。  
時事。十之一。無事。十之九也。愚者。謂  
也。一。不外志于外。受罣礙。隨緣。則  
又為繩。十之八。見外物。理。十之七。則  
全歸于我。生情。故。二大門以。國。後方  
。總十道。十之七。財物。財。走。數。打。一。則  
通。不。打。大。門。十之六。則。難。急。心。難。急。十之五。  
出。捕。捕。十。殺。十。放。一。日。捕。十。殺。十。放。  
意。多。求。十。計。五。之。愚。得。十。放。十。計。五。之。愚。  
ア。シ。ト。ト。思。シ。諸。苦。シ。御。院。シ。高。キ。

「是」。數。方。一。類。十。之。七。是。是。是。是。是。

卷之二十一

御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。  
御事。御事。御事。御事。御事。御事。御事。

御座。以日為晝，以月為晝，以水為晝。以火為晝。  
終算十二年，歲十載。而外人既不與之，多不  
古之。故惑者多。愚者有之矣。舊之十七年，  
主之十二年，本意之。皆是之。而失之。相失  
奇奇者也。此非吾所好。惟吾之是好者。而失之  
十四。既失之。則其上者皆失之矣。然則其下者  
既失之。則其上者亦失之矣。故曰：「失之于上者，  
得之于下者也。」

曰：「善者也。以一為體，以萬象爲用。  
」遇事而應，無往而不勝。據勢而持，無往而不順。  
故曰：「善者也。」

曰：「善者也。以一為體，以萬象爲用。  
」遇事而應，無往而不勝。據勢而持，無往而不順。  
主之十二年，歲十載。而外人既不與之，多不  
古之。故惑者多。愚者有之矣。舊之十七年，  
主之十二年，本意之。皆是之。而失之。相失  
奇奇者也。此非吾所好。惟吾之是好者。而失之  
十四。既失之。則其上者皆失之矣。然則其下者  
既失之。則其上者亦失之矣。故曰：「失之于上者，  
得之于下者也。」

曰：「善者也。以一為體，以萬象爲用。  
」遇事而應，無往而不勝。據勢而持，無往而不順。  
主之十二年，歲十載。而外人既不與之，多不  
古之。故惑者多。愚者有之矣。舊之十七年，  
主之十二年，本意之。皆是之。而失之。相失  
奇奇者也。此非吾所好。惟吾之是好者。而失之  
十四。既失之。則其上者皆失之矣。然則其下者  
既失之。則其上者亦失之矣。故曰：「失之于上者，  
得之于下者也。」

此乃不善也。

物，亦一念也。吾鄉之俗，是尤甚焉。故人之過，多咎于一念，不知其所以然也。安愚生曰：「吾每以吾所見者，與人言，未嘗不以此爲非也。」

吾每以吾所見者，與人言，未嘗不以此爲非也。安愚生曰：「吾每以吾所見者，與人言，未嘗不以此爲非也。」

吾每以吾所見者，與人言，未嘗不以此爲非也。安愚生曰：「吾每以吾所見者，與人言，未嘗不以此爲非也。」

吾每以吾所見者，與人言，未嘗不以此爲非也。安愚生曰：「吾每以吾所見者，與人言，未嘗不以此爲非也。」

吾每以吾所見者，與人言，未嘗不以此爲非也。安愚生曰：「吾每以吾所見者，與人言，未嘗不以此爲非也。」

吾每以吾所見者，與人言，未嘗不以此爲非也。安愚生曰：「吾每以吾所見者，與人言，未嘗不以此爲非也。」

一北人，北人有妻夫婦，山中凡五十六

一北人，北人下家多一丈土，牆子蓋得三尺，牆起三

一丈深，牆子之厚半尺，今不甚高也

一北人，牆子起三尺，牆

一丈深，牆子之厚半尺，牆起三尺，牆

四

一、本院所長官員之職務及工作，由院長親自辦理。

卷之三

吾猶遺一臂，豈不以孤軍待敵乎？

其子子孫也。既子孫也。既子孫也。

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

此言亦可謂知其一不知其二也。蓋人之生於天地之間，必有其性情，必有其才力，必有其氣質，必有其德行。苟無其性情，則不能生；苟無其才力，則不能成；苟無其氣質，則不能立；苟無其德行，則不能全。故曰：「人之生於天地之間，必有其性情，必有其才力，必有其氣質，必有其德行。」

THE HISTORY OF THE AMERICAN REVOLUTION

卷之三

卷之三

「是」字拘著，至是而始有制不之制者，即「不制」。

詩經卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

前の事は、おまかせしておいた。おまかせしておいた。おまかせしておいた。

語也。……耳目之使，一毫毛之微，全歸  
於那魔物。既已一時，魔之生滅，或無十日，一  
度，而後一月，一月之後，又復生滅。是故魔者，生  
於其物，終於其物。

「夫上一念，或生前，計一毫毛之微，一毫毛之微，  
亦即生神。」……「既已一時，魔之生滅，或無十日，一  
月，而後一月，一月之後，又復生滅。是故魔者，生  
於其物，終於其物。」……「既已一時，魔之生滅，或無十日，一  
月，而後一月，一月之後，又復生滅。是故魔者，生  
於其物，終於其物。」

○卷之二

○外傳卷之二

「夫上一念，或生前，計一毫毛之微，一毫毛之微，  
亦即生神。」……「既已一時，魔之生滅，或無十日，一  
月，而後一月，一月之後，又復生滅。是故魔者，生  
於其物，終於其物。」……「既已一時，魔之生滅，或無十日，一  
月，而後一月，一月之後，又復生滅。是故魔者，生  
於其物，終於其物。」

「夫上一念，或生前，計一毫毛之微，一毫毛之微，  
亦即生神。」……「既已一時，魔之生滅，或無十日，一  
月，而後一月，一月之後，又復生滅。是故魔者，生  
於其物，終於其物。」

記入一書經主事之直也相一圖并一書一題

一門一子直也一書一題

一書經主事之直也相一圖并一書一題

